
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 375 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2015.01.17（土）発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1041 部*****

□ 目 次 □-----

<巻頭言> おだやかな年でありますように 小泉浩郎

<お知らせ 1> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<お知らせ 2> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

<編集後記> 日本もまんざら捨てたものではない

<巻頭言> おだやかな年でありますように

明けましておめでとうございます。

ご愛読、心から感謝します。「ひつじ」は童謡、童話の人気者、「おだや
か」がシンボルです。みなさまにとって「おだやか」で良き年でありますよう
心から祈念いたします。

真っ白に積もった雪、新聞配達の単車の跡が、一本まっすぐに朝もやの中に
消えていく…。年賀はがきは、毎年、その年に旅した印象的な写真にしてくま
ました。今年是我が家の門口からの雪景色、そのキャプションに「この道しかな
い」、「……………」 「この道はいつか来た道」としました。

年末総選挙で首相だけが（と思えるほど）成長戦略は「この道しかない」の
ワンフレーズをあらゆるメディアを駆使して連呼、多くの国民は「……………」と
当惑、そして選挙に大勝した今、平和憲法を改正する国、武器を輸出する国、
海外で戦争のできる国、原発を輸出する国、原発を再稼働する国、福祉を縮小
し大企業を優遇する国、農産物を輸出する国、食糧自給を忘却する国、TPPで
弱いものいじめをする国などを経済成長至上主義に糾合、「いつか来た道」へ
と逆行しているよう思われます。

揺れ動く綱の上を、皆様のご支援で足元をしっかりと見つめてバランスをとりながら、日常の暮らしが「おだやか」である道を考え、歩みを続けます。本年もよろしく願いいたします。

小泉浩郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ 1> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5版・30ページ)が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み500円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市

酪農・教育ファーム・レストラン 人見みみ子さん

(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を

埼玉県上尾市 榎本美津子さん(小井川敏子聞き書き)

No.2 世羅高原のそよ風になりたい

広島県世羅町 井上幸枝さん(後由美子聞き書き)

No.3 むらにまちに子どもたちにふるさとの味を伝えたい

鳥取県鳥取市 西山徳枝さん(小泉浩郎聞き書き)

No.4 働きやすい作業環境の改善

徳島県 藍住地区のお母さん達(小林徳子聞き書き)

No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い

茨城県大子町 齊藤キヌ子さん(臼井雅子聞き書き)

No.6 デパートに進出した農村女性

栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ(阿久津加居聞き書き)

No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる

群馬県嬭恋村 丸山みち子(丸山みち子著)

No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ

栃木県那須塩原市 人見きみ子さん（阿久津加居聞き書き）

No.9 （近刊）月に手が届く山間農家に嫁いで

高知県土佐町 和田計美さん

<お知らせ 2> 山崎農業研究所所報『耕 No.132』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.133』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布（有料：1,000 円）いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

■山崎農業研究所 40 周年記念

山崎農業研究所を支える力— 40 年を振り返って◎安富六郎

〈山崎イズムを現代に問う〉

- ・研究活動における山崎イズム◎田淵俊雄
- ・研究をもっと技術に生かすために◎多田 敦
- ・山崎不二夫先生の全人間的な研究実践に学ぶ◎熊澤喜久雄
- ・コンサルタントと研究所◎横澤 誠

〈研究所活動をめぐって〉

- ・現地に学び現地とともに◎小泉浩郎
- ・定例研究会について◎石川秀勇
- ・「耕」「電子耕」単行本を通じた社会への発信◎田口 均
- ・研究所のこれからを考える◎渡邊 博

〈山崎（記念）農業賞受賞者はいま〉

- ・丸藤政吉〈第 5 回・1979 年〉現場と共に＝「農村通信」創刊 800 号
- ・小林芳正〈第 8 回・1982 年〉ふるさとへの想い—いまも消えることなく
- ・古野隆雄・久美子〈第 21 回・1996 年〉合鴨家族の 20 年

—進化し続ける合鴨水稲同時作

- ・鋸谷 茂〈第 29 回・2004 年〉自然の摂理に基づいた林業技術を現場で実践
- ・榎本牧場〈第 30 回・2005 年〉都市近郊で酪農の 6 次化をさらに展開
- ・大張物産センターなんでもや〈第 32 回・2007 年〉

地区民が求める「なんでもや」であり続けること

・野口種苗研究所・野口 勲〈第 33 回・2008 年〉

自然回帰の時代のなかで固定種の普及につとめる

・NPO 法人 福島県有機農業ネットワーク〈第 36 回・2012 年〉

福島の有機農業再興のために

■第 147 定例研究会 愛郷 vs 愛国— TPP 問題へのもう一つの視座◎宇根 豊
〈書評〉宇根 豊 著『百姓学宣言』／徳永光俊

<編集後記> 日本もまんざら捨てたものではない

昨年末の 12 月 31 日、家人がインフルエンザにかかってしまったので、どこにも出かけず自宅でしんみりと NHK 紅白歌合戦を見ることにした。

なんとサザンオールスターズが出演するではないか！ サザンオールスターズ
といえば、アラフィー世代のわたしにとっては中学からのおつきあいである。
どうでもいいことかもしれないが、わたしにとってカラオケ＝サザンといっ
ても過言ではない。

番組終盤になってサザンが年越しライブを行なっている会場と NHK ホールがつ
ながった。桑田さんはなぜかちょび髭をつけている。そして歌ったのは「ピー
スとハイライト」。

カラオケ＝サザンといっても過言ではない、といいつつ、1 曲とおして聴くの
はたぶんはじめてというあたりが、ファン度の微妙さを物語ってはいるのだが、
こんな歌詞である。

<http://www.uta-net.com/movie/150317/>

なんかいいではないか。かる〜くいまの社会を風刺しているともとれる。その
かるさがなんともいえずいい。

新聞やネットで次のようなことを知った。この歌が発表されたのは 2013 年。
「ちょび髭はヒットラーの真似」だとか、「ピース（平和）とハイライト（極
右）」だとか、ネット上ではサザンオールスターズを批判する声も結構強いと

か、さらには一昨年、安倍首相夫妻が訪れていたコンサートで桑田さんは「爆笑アイランド」の歌詞を「衆院解散なんてむちゃを言う」とアドリブで歌ったとか。

言葉が命であるのは、歌手であればあたりまえだ。だが近年、さまざまな面でそのあたりまえに危機がせまっているのではないかと感じさせられる場面がなんどもあった。が、2014年最後の日にサザンオールスターズのこの歌を聴くことはできた。日本もまんざら捨てたものではない。そんな年越しだった。

2015年01月16日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ~卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考—グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名（見出し）を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字（機種依存文字）のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 376号の締め切りは01月26日、発行は01月29日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 375 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2015.01.17（土）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****